

エコアクション21 環境活動レポート



【活動期間 平成28年7月～平成29年6月】

発行年月日：平成29年8月24日 第7版



総合建設業
東山建設株式会社

〒781-8122
高知県高知市高須新町三丁目5番1号
TEL：088-885-2727
FAX：088-885-3690

目 次

1 組織の概要	P-1
2 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	P-2
3 環境方針	P-3
4 環境管理組織体制	P-4
5 環境目標	P-5
6 環境活動計画	P-6
7 環境目標の実績	P-7
8 環境活動計画の取組結果とその評価	P-9
9 次年度の取組内容	P-12
10 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P-13
11 代表者による全体評価と見直しの結果	P-14

1 組織の概要

商号 東山建設株式会社
代表者 代表取締役 東山 瑞穂
環境管理責任者 福留 和広

本社所在地 〒781-8122 高知県高知市高須新町三丁目5番1号
TEL 088-885-2727 FAX 088-885-3690
E-mail info@higasiyama.com URL http://www.higasiyama.com
(担当者 村岡 利之)

付属施設 倉庫・機材置場 (〒781-5103高知県高知市大津乙1877-1 敷地976m² 鉄骨スレート741m²)
資材置場 (〒780-8025高知県高知市南中山31-1 敷地2500m²)

保有機械等 BH0.45m³ 1台 BH0.15m³ 2台 ダンプトラック 2台 4+ユニック車 1台

事業内容 土木構造物の施工
土木部は、主に公共工事が主体
建築構造物の施工
建築部は、公共8割民間2割・耐震工事(ピタコラム工法)(ウッドピタ工法)

創業 昭和18年7月 (1943年)

資本金 2,100万円

※当社の事業年度は7月から翌年6月です

事業規模	26年度	27年度	28年度
完工高	1082百万円	1095百万円	820百万円
従業員数(6月末時点)	29人	31人	30人
事業所敷地面積	1,230m ²	1,230m ²	1,230m ²
事業所延べ床面積	944m ²	944m ²	944m ²

許可 特定建設業の許可 高知県知事許可 (特-26) 第1427号 許可日 平成27年3月9日
土木工事業 大土工事業 タイル・れんが・ブロック工事業
ほ装工事業 内装仕上工事業 建築工事業 とび・土工事業
鋼構造物工事業 しゅんせつ工事業 水道施設工事業
石工事業 塗装工事業 防水工事業 造園工事業

一般建設業の許可 高知県知事許可 (般-26) 第1427号 許可日 平成27年3月9日
管工事業

2 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

対象範囲	本社 〒781-8122 高知県高知市高須新町3丁目5番1号 倉庫・機材置場 〒781-5103高知県高知市大津乙1877-1 資材置場 〒780-8025 高知県高知市南中山31-1
環境レポート対象期間	平成28年7月～平成29年6月（1年間）（第7版）
環境レポート発行日	平成29年8月24日
次回の環境レポート発行予定	平成30年8月予定
作成責任者	環境管理責任者 福留 和広

3 環境方針

【基本理念】

当社は、事業活動における環境負荷の低減と地球環境保全の重要性を認識し、活動を通じて循環型社会の構築に継続的に貢献する。

【基本方針】

- 1) : 事業活動に於けるCO₂削減と節水に努めます。
- 2) : 事業活動に於ける廃棄物の削減と適正処理に努めます。
- 3) : 事業活動に於ける地産地消に努めます。
- 4) : 環境関連法規を遵守し、環境配慮工法及び製品を積極的に活用します。
- 5) : 社会貢献活動に積極的に参加に努めます。
- 6) : 全従業員にこの取組を周知するとともに、環境レポートを公開します。
- 7) : グリーン購入の促進に努めます。

平成22年7月1日制定

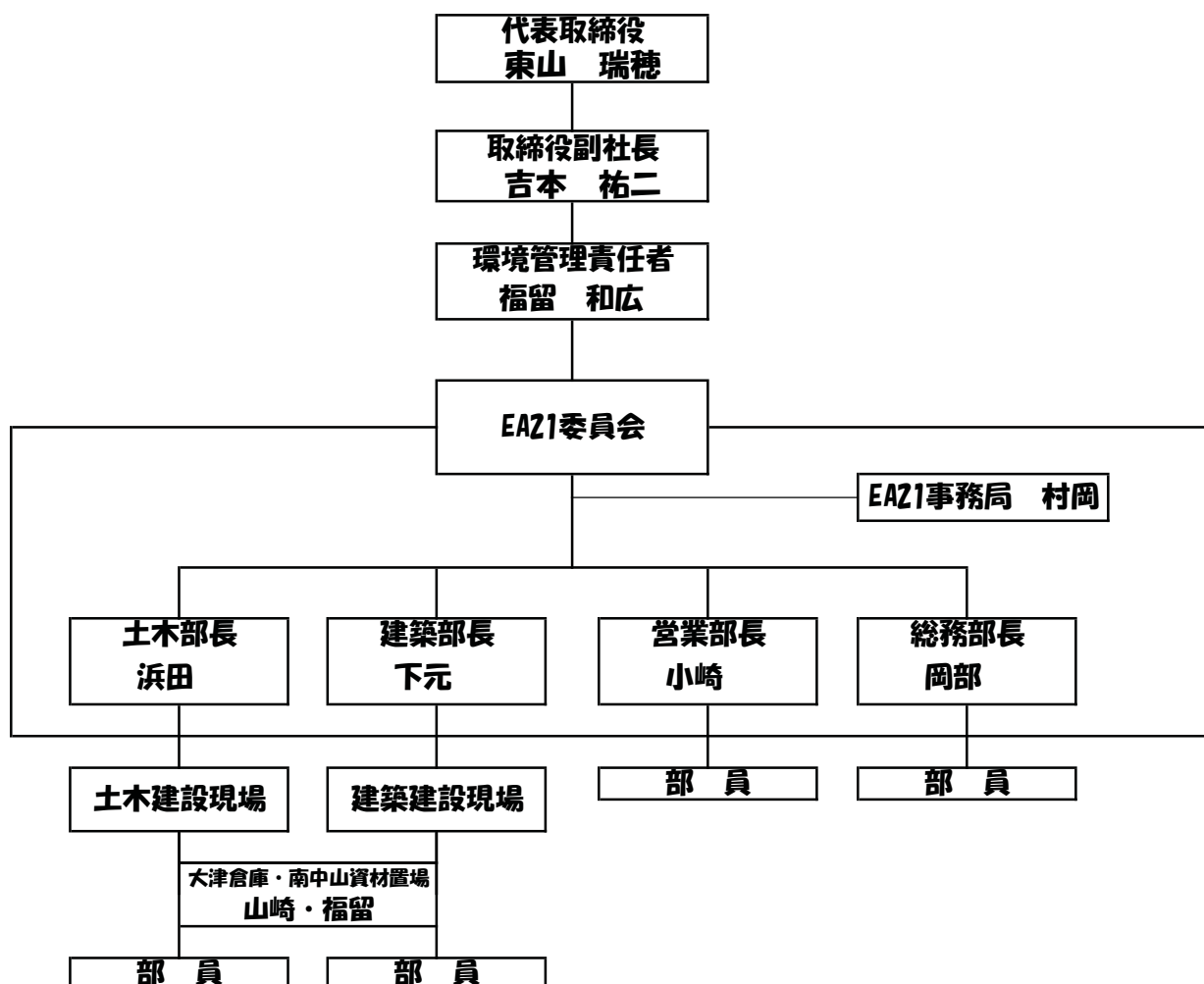
平成27年7月31日改定

東山建設株式会社

代表取締役

東山 瑞穂 

4 環境管理組織体制



環境管理システム 役割 責任 権限

代表者 (副社長) : 環境経営の統括責任者 : 環境方針を定め、周知する
 : 環境管理責任者を定める : 資源の調達
 : 活動計画書の承認と計画及び取組みの見直し : 活動レポートの承認

環境管理責任者 : 環境活動計画の構築・運用管理 : 関連法規の確認
 : 活動計画書の立案 : 実施状況を代表者へ報告 : 活動レポートの確認
 : 教育訓練の立案 : 環境コミュニケーションの確認

EA21事務局 : システム運用上の事務処理

委員会 (部門長) : 環境活動計画の実施 : 計画の実施及び達成状況の報告
 : 教育訓練の実施 : 問題点の発見、是正、予防処置の実施

従業員 (部員) : 環境方針の理解 : 自主的、積極的な環境活動への参加

5 環境目標

事務所 (単年度及び中長期)		今回対象年度					
項目	平成21～25年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	基準値 (平均)	目標	目標	目標	目標	目標	
ガソリン使用量	L/年	5,979	5,800	5,740	5,680	5,620	5,560
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
灯油使用量	L/年	327	317	314	310	307	304
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
電力使用量	kWh/年	28,402	27,550	27,266	26,982	26,698	26,413
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	25,332	24,572	24,319	24,065	23,812	23,559
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
水使用量	m ³ /年	159	154	152	151	149	148
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
一般廃棄物排出量	kg/年	162	159	157	155	154	152
	注2 削減率		-2%	-3%	-4%	-5%	-6%
グリーン購入金額	円/年	261,000	266,220	268,830	271,440	274,050	276,660
	増加率		+2%	+3%	+4%	+5%	+6%

現場 (単年度及び中長期)		今回対象年度					
項目	平成21～25年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	基準値 (平均)	目標	目標	目標	目標	目標	
ガソリン使用量	L/年	12,718	12,336	12,209	12,082	11,955	11,828
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
軽油使用量	L/年	34,257	33,329	32,886	32,544	32,202	31,859
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
灯油使用量	L/年	556	539	533	528	523	517
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
電力使用量	kWh/年	79,664	77,274	76,477	75,680	74,884	74,088
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	115,931	112,453	111,293	110,134	108,975	107,815
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
水使用量	m ³ /年	212	205	203	201	199	197
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
産業廃棄物排出量	t/年	2,555	2,478	2,453	2,427	2,402	2,376
	削減率		-3%	-4%	-5%	-6%	-7%
環境配慮工法 及び製品の活用			2項目以上	3項目以上	4項目以上	5項目以上	5項目以上
事業活動における 地産地消			2項目以上	3項目以上	4項目以上	5項目以上	5項目以上

基準年の設定・・・平成21年度から平成25年度の5年間の平均とした

注1：購買電力のCO₂排出係数は平成21年12月28日公表の四国電力の実排出係数0.378kg-CO₂/kWhを使用しています。

注2：一般廃棄物は、リサイクル量を除いた数量としています。

6 環境活動計画（平成28年度）

（平成28年7月1日～平成29年6月30日）

項目	活動内容	担当者
電気使用量削減	長時間使用しないパソコンは電源OFF	使用者
	退社時にコンセントを抜く	使用者
	不要な照明の消灯	EAZ1委員会
	不要な空調機器の停止	EAZ1委員会
	トイレ・洗面所は必要時のみ点灯	使用者
	蛍光灯のLED変換	EAZ1委員会
	冷暖房機の温度設定（冷房28℃ 暖房20℃）	EAZ1委員会
燃料使用量削減	アイドリングストップ・急発進・急加速の禁止	使用者
	法定速度遵守	使用者
	過積載防止	現場責任者
	電車（ですか）利用促進	総務
	排ガス対策機械の優先使用	現場責任者
	低燃費機械の優先使用	現場責任者
	低燃費車両への買替	EAZ1委員会
一般廃棄物削減	可能な限り両面コピーの実施	使用者
	可能なものは裏紙コピーの実施	使用者
	ゴミの分別をして減量化さす	総務
	リサイクル業者への排出	総務
産業廃棄物削減	マニフェストによる適正管理・処理に努める 分別を徹底して排出する	現場責任者
水使用量削減	垂れ流し状態をなくす	使用者
	こまめに蛇口を閉める	
グリーン商品の利用促進	グリーン商品の優先購入	総務
	対象商品の拡大	
地産地消の取組	リサイクル資材の優先購入	現場責任者
	木材・コンクリート製品など（輸送コスト低減）	
環境配慮工法・製品の使用	河川汚濁防止対策	現場責任者
	排ガス対策機械・低燃費機械の使用	
	粉塵発生の低減	
	低騒音・低振動な施工の促進	
地域・社会貢献活動	使用資材の化学物質の低減	EAZ1委員会
	清掃活動などに積極的な参加	
	エコキャップ活動の拡大 交通エコポイント還元事業	

7 環境目標の実績

事務所（28年度）

項目	単位	平成21～25年度	28年度	
		基準値（5年平均）	目標値	実績値
ガソリン使用量	総量（L/年）	5,979	5,800	12,558
			-3%	+110%
灯油使用量	総量（L/年）	327	317	504
			-3%	+54%
電力使用量	総量（kWh/年）	28,402	27,550	27,679
			-3%	-3%
二酸化炭素排出量 ^{注1}	総量（kg-CO ₂ /年）	25,332	24,572	41,039
			-3%	+62%
水使用量	総量（m ³ /年）	159	154	148
			-3%	-7%
一般廃棄物排出量 ^{注2}	総量（kg/年）	162	159	154
			-2%	-5%
グリーン購入金額	購入金額（円/年）	261,000	266,220	385,872
			+3%	+48%

※電気事業者のCO₂排出係数（四国電力）平成21年12月28日公表 0.378kg-CO₂/kWhを使用 (注1)

※一般廃棄物排出量は、リサイクル分を除いた数量としています。 (注2)

- ・ガソリン使用量の倍増加は、長距離移動の増加と思われる。
- ・二酸化炭素排出量の増加も、ガソリン使用量の増加が原因である。

現場（28年度）

項目	単位	平成21～25年度	28年度	
		基準値（5年平均）	目標値	実績値
ガソリン使用量	総量（L/年）	12,718	12,336	16,722
			-3%	+31%
軽油使用量	総量（L/年）	34,257	33,329	92,892
			-3%	+171%
灯油使用量	総量（L/年）	556	539	810
			-3%	+45%
電力使用量	総量（kWh/年）	79,664	77,274	37,244
			-3%	-53%
二酸化炭素排出量 ^{注1}	総量（kg-CO ₂ /年）	115,931	112,453	298,702
			-3%	+157%
水使用量	総量（m ³ /年）	212	205	102
			-3%	-52%
産業廃棄物排出量	総量（t/年）	2,555	2,478	5,885
			-3%	+130%
環境配慮工法など	（5千万以上の工事）		—	7件工事
			2項目以上	2～3項目実施

- ・軽油使用量の増加原因は、河川工事での発電機使用による。
- ・二酸化炭素排出量も上記に伴って大幅な増加となった。
- ・産業廃棄物の増加は、河川工事での竹根処理及び歩道工事で、がれき類の発生が原因である。

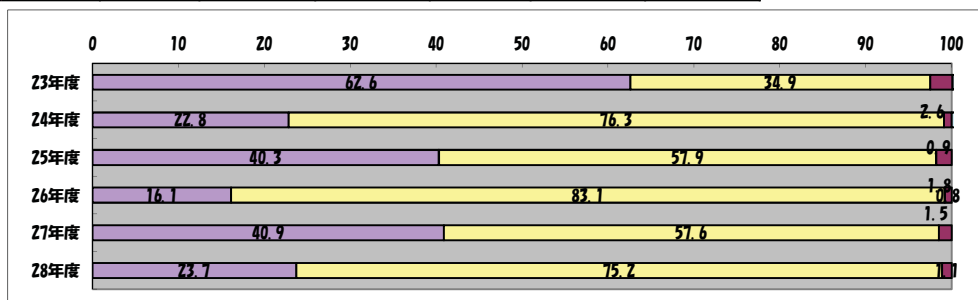
当社の環境負荷の状況 平成23年度からの推移

	本社(本)	現場(本)	計(本)		比率%	
ガソリン	23年度	29	50	79	ドラム缶200ℓ 換算(本)	62.6
	24年度	26	49	75		22.8
	25年度	29	44	73		40.3
	26年度	32	38	70		16.1
	27年度	33	43	76		40.9
	28年度	63	83	146		23.7

軽油	23年度	0	44	44	ドラム缶200ℓ 換算(本)	34.9
	24年度	0	251	251		76.3
	25年度	0	105	105		57.9
	26年度	0	362	362		83.1
	27年度	0	107	107		57.6
	28年度	0	464	464		75.2

河川工事で使用量増加

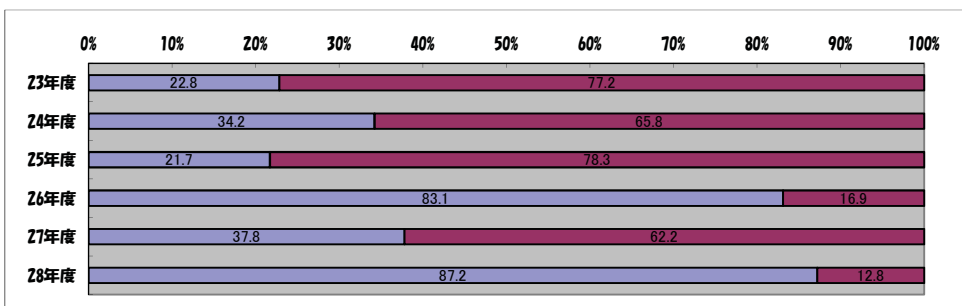
灯油	23年度	1.5	1.6	3.1	ドラム缶200ℓ 換算(本)	2.6
	24年度	1.8	1.1	2.9		0.9
	25年度	0.7	2.5	3.2		1.8
	26年度	1.4	2.0	3.4		0.8
	27年度	0.6	2.2	2.8		1.5
	28年度	2.5	4.0	6.5		1.1



産業廃棄物排出量と再生材使用量

			比率%
CoガラAsガラ木くず等排出量	23年度	2,346	22.8
	24年度	1,150	34.2
	25年度	1,276	21.7
	26年度	2,524	83.1
	27年度	2,440	37.8
	28年度	5,885	87.2

再生砕石等使用量	23年度	7,947	77.2
	24年度	2,211	65.8
	25年度	4,613	78.3
	26年度	512	16.9
	27年度	4,008	62.2
	28年度	859	12.8



売上高・CO₂排出量

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上高(百万円)	690	746	916	1082	1095	820
CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	75,727	130,219	109,986	238,569	111,334	339,741
売上高百万円当たりのCO ₂ 排出量	109.7	174.6	120.1	220.5	100.7	414.3

項目	担当者	活動内容	取組結果	評価	見直し
電気使用量削減	使用者	長時間使用しないパソコンは電源OFF	ほぼできている	△	-
	使用者	退社時にコンセントを抜く	実施できている	○	-
	EAZ1委員会	不要な照明の消灯	節電シールの効果	○	-
	EAZZ委員会	不要な空調機器の停止	節電シールの効果	○	-
	使用者	トイレ・洗面所は必要時のみ点灯	節電シールの効果	○	-
	EAZ1委員会	蛍光灯のLED変換	実施できなかった	×	少しでも対応する
	EAZZ委員会	冷暖房機の温度設定（冷房28℃ 暖房20℃）	一部実施できなかった	△	-
燃料使用量削減	使用者	アイドリングストップ・急発進・急加速の禁止	実施できている	○	-
	使用者	法定速度遵守	実施できている	○	-
	現場責任者	過積載防止	実施できている	○	-
	総務	電車（ですか）利用の促進	前年より少し増加	○	-
	現場責任者	排ガス対策機械の優先使用	実施できている	○	-
	現場責任者	低燃費機械の優先使	実施できている	○	-
	EAZZ委員会	低燃費車両への買替	実施できている	○	-
一般廃棄物削減	使用者	可能な限り両面コピーの実施	実施できている	○	-
		可能なものは裏紙コピーの実施	実施できている	○	-
	総務	ゴミの分別をして減量化	実施できている	○	-
		リサイクル業者への排出	実施できている	○	-
産業廃棄物削減	現場責任者	マニフェストによる適正管理・処理に努める	実施できている	○	-
		分別を徹底して排出する	実施できている	○	-
水使用量削減	使用者	垂れ流し状態をなくす	節水シールの効果	○	-
		こまめに蛇口を閉める	節電シールの効果	○	-
グリーン商品の利用促進	総務	グリーン商品の優先購入	実施できている	○	-
		対象商品の拡大	実施できている	○	-
地産地消の取組	現場責任者	リサイクル材料の優先購入	実施できている	○	-
		木材・コンクリート製品など（輸送コスト低減）	実施できている	○	-
環境配慮工法・製品の使用	現場責任者	河川汚濁防止対策	2現場で実施	○	県工事でお褒めあり
		排ガス機械・低燃費機械の使用	排ガス対策機械は全現場実施	○	-
		粉塵発生の低減	散水などを適切に実施	○	-
		低騒音・低振動な施工の促進	殆どの使用機械は低騒音を使用	○	-
		使用資材の化学物質の低減	VOCの発生が少ない資材を選定及び測定	○	-
地域・社会貢献活動	EAZ1委員会	清掃活動への積極的参加	清掃活動に参加	○	-
		エコキャップ活動も拡大	増加	○	-
		交通エコポイント還元事業	継続中	○	-

評価者 環境管理責任者
 ※確認・評価は社内検査や安全パトロール
 の実施時などに確認しました。
 平成29年7月5日

当社の環境活動状況

河川清掃活動に参加

仁淀川清掃活動



波介川清掃活動



物部川清掃活動



仁淀川河口清掃活動



9 次年度（平成29年度）の取組内容 （平成29年7月～平成30年6月）

項目	活動内容	担当者	
電気使用量削減	長時間使用しないパソコンは電源OFF	継続	使用者
	退社時にコンセントを抜く	継続	使用者
	不要な照明の消灯	継続	EAZ1委員会
	不要な空調機器の停止	継続	EAZ1委員会
	トイレ・洗面所は必要時のみ点灯	継続	使用者
	蛍光灯のLED変換	継続	EAZ1委員会
	冷暖房機の温度設定（冷房28℃ 暖房20℃）	継続	EAZ1委員会
燃料使用量削減	アイドリングストップ・急発進・急加速の禁止	継続	使用者
	法定速度遵守	継続	使用者
	過積載防止	継続	現場責任者
	電車（ですか）利用の促進	継続	総務
	排ガス対策機械の優先使用	継続	現場責任者
	低燃費機械の優先使用	継続	現場責任者
	低燃費車両への買替	継続	EAZ1委員会
一般廃棄物削減	可能な限り両面コピーの実施	継続	使用者
	可能なものは裏紙コピーの実施	継続	使用者
	ゴミの分別をして減量化さす	継続	総務
	リサイクル業者への排出	継続	総務
産業廃棄物削減	マニフェストによる適正管理・処理に努める	継続	現場責任者
	分別を徹底して排出する	継続	
水使用量削減	垂れ流し状態をなくす	継続	使用者
	こまめに蛇口を閉める	継続	
グリーン商品利用促進	グリーン商品の優先購入	継続	総務
	対象商品の拡大	継続	
地産地消の拡大	リサイクル材料の優先購入	継続	現場責任者
	木材・コンクリート製品など（輸送コスト低減）	継続	
環境配慮工法・製品の使用	河川汚濁防止対策	継続	現場責任者
	排ガス対策機械・低燃費機械の使用	継続	
	粉塵発生の低減	継続	
	低騒音・低振動な施工の促進	継続	
	使用資材の化学物質の低減	継続	
地域・社会貢献活動	清掃・防犯活動への積極的な参加	継続	EAZ1委員会
	エコキャップ活動の拡大	継続	
	交通エコポイント還元事業	新規	

10 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 環境関連法規遵守の確認と評価

遵守確認日 平成29年7月5日

法規制等の名称	該当する要求事項	確認項目	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物・事務所ゴミの分別排出	資源物の分別確認	○
		許可業者確認	○
	産業廃棄物	委託先の許可確認	○
		委託契約確認	○
		委託者の適正処理確認	○
		管理票の交付、回収、照合確認	○
		交付状況報告書確認	○
		1000+以上の届出	○
	収集、運搬業	契約状況確認	○
		有効期限確認	○
車輛確認・表示		○	
積替え保管場所確認		○	
資源有効利用促進法	指定副産物に係る再生資源利用の促進	再生資源利用計画・実施書の作成と保存	○
建設リサイクル法	特定建設資材の分別解体・処理	契約書に明示及び上記書面確認	○
騒音規制法	敷地境界で規制基準を満たすこと	特定建設作業届け	○
振動規制法	敷地境界で規制基準を満たすこと	特定建設作業届け	○
水質汚濁防止法	事故等で、公共用水域に油等の汚染水が排出された場合は応急対策を講じ、県へ届出	該当事項の有無とその処置方法	該当なし
グリーン購入法	環境負荷の少ない製品の優先利用	購入品種・購入金額の確認	○
建設工事公衆災害防止対策要綱	公衆災害防止（ほこり・地盤沈下）	防塵対策（散水など）確認	○
高知県・高知市公害防止条例	水質・振動・騒音	適宜、届出実施（計画書確認）	○

違反・訴訟等の有無について

当社に於いて適用される環境法規に対して、違反はありませんでした。

又、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟はありません。

対象期間 平成28年7月1日～平成29年6月30日

見直しに必要な情報	代表者による見直し
(環境管理責任者)	平成29年7月3日 代表取締役 東山 瑞穂
<p>【取組の評価・提案】</p> <p>①苦情処理に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし ・漁協からお褒めを頂いた。 <p>②是正・予防に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川工事に関して、汚濁などでの苦情が発生しなかったことは、事前の対策（予防）が実施された結果と思われる。 <p>③前回までの代表者の指示事項への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に対して、二酸化炭素の排出量が倍増したが工事種類、規模の関係でいたしかたない結果となった。 <p>④改善の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃費の悪い古い車両の買換えを随時行う 	<p>【環境方針】</p> <p>特に大幅な変更の必要性は無い。</p> <p>今回の結果は、工事の種類、規模の影響を受け目標達成には至らなかったが、引き続き環境負荷の低減に努めるとともに、社会貢献活動などに積極的に参加し、活動を継続すること。</p>
<p>【目標の達成状況】</p> <p>電力消費の削減 (本社) 未達成 (ほぼ達成) (現場) 達成</p> <p>化石燃料消費削減 (本社) 未達成 (現場) 未達成 軽油使用の大幅増</p> <p>CO₂排出量削減 (本社) 未達成 (現場) 未達成 軽油の使用大幅増</p> <p>産業廃棄物の削減 (本社) 達成 (現場) 未達成</p> <p>節水 (本社) 未達成 (現場) 達成</p> <p>地域・社会貢献 増加</p> <p>グリーン購入 増加</p> <p>地産地消 増加</p> <p>環境配慮・製品 増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木現場での軽油の使用量の大幅増加 ・グリーン購入は増加 ・地産地消、環境製品の使用は増加 	<p>【目標・活動計画】</p> <p>変更の必要性なし</p> <p>活動の成果はあまり良くない結果となったが、社会貢献活動などは、増加傾向であり活動を継続すること。</p> <p>今回は、河川工事で良く配慮が出来ていた。現場担当者は創意工夫をしながら取組を実施すること。</p> <p>現場の化石燃料使用量は工事の特性によって大きく変化し、仕方の無い部分があるので、引き続きリサイクル率の増加と環境配慮製品の使用の増加に務めること。</p>
<p>【周囲の変化】</p> <p>外部コミュニケーション 河川工事で漁協よりお褒めの言葉を頂く。</p> <p>環境関連法規制の動向 改正なし</p>	
<p>【総括】</p> <p>引き続き全従業員の環境意識の高揚に努め、環境負荷低減に努めること。</p> <p>環境経営システムは有効に機能している、変更の必要性は無い。</p>	